

# 米雇用の回復は持続、10年債利回り上昇

## ポイント① 1月の雇用は回復傾向を維持

2月4日に発表された1月の米雇用統計によれば、非農業部門就業者数は前月比で46.7万人と大幅に増加しました。失業率は4.0%と前月から概ね変化はありませんでした。1月は新型コロナウイルスの感染が再拡大した時期にもかかわらず、雇用は堅調な回復が続いています。平均時給は前月比で0.7%増加しており、依然としてインフレに影響を及ぼしそうです。

## ポイント② 飲食店を中心に雇用が回復

1月は幅広い分野で雇用の伸びが見られました。特に非製造業は娯楽・ホスピタリティーの分野で15.1万人増加、小売業も6.1万人増加しました。一方、足元の新規感染者数はピークアウトしていますが、新型コロナウイルス・オミクロン型の状況次第では、再び雇用が鈍化する恐れもあるでしょう。製造業の雇用者数の増加ペースは前月から大きく変化はありませんでした。1月の米ISM（サプライマネジメント協会）製造業景況感指数は3ヵ月連続で低下しています。人手不足の影響もあり、製造業の雇用も減速リスクには留意が必要とみられます。

## ポイント③ 米10年債利回りは上昇

今回の雇用統計を受け、米10年債利回りは1.9%台に上昇しました。市場の予想を上回り就業者数が大幅に増加したことに加え、平均時給も上昇したことにより、FRB（米連邦準備制度理事会）が予定通り3月の利上げに踏み切るという観測が強まっています。2月の雇用の回復ペースとインフレの状況次第では、市場が想定しているよりも利上げペースが加速する可能性もある為、コロナ感染が一巡した後の雇用・景気動向には特に注目です。

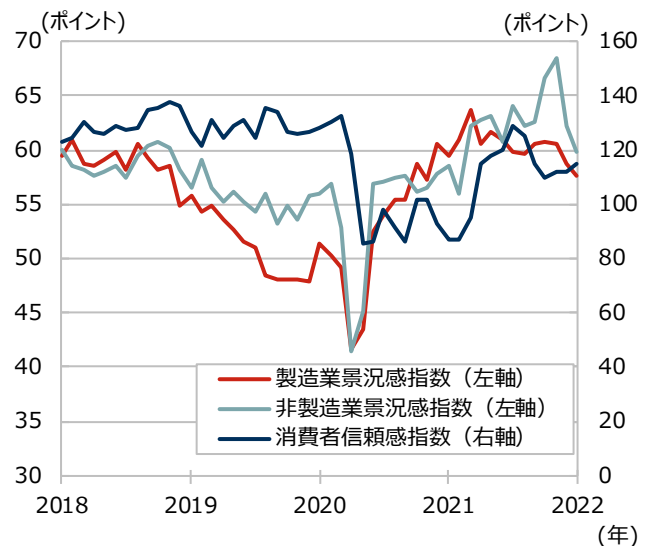
米国の失業率と非農業部門就業者数

	失業率 (%)	労働参加率 (%)	非農業部門就業者数 (万人)	
			総数	前月比増減
2021年				
1月	6.4	61.4	14,302	52.0
2月	6.2	61.5	14,373	71.0
3月	6.0	61.5	14,443	70.4
4月	6.0	61.7	14,469	26.3
5月	5.8	61.6	14,514	44.7
6月	5.9	61.6	14,570	55.7
7月	5.4	61.7	14,639	68.9
8月	5.2	61.7	14,690	51.7
9月	4.7	61.7	14,733	42.4
10月	4.6	61.7	14,801	67.7
11月	4.2	61.9	14,865	64.7
12月	3.9	61.9	14,916	51.0
2022年				
1月	4.0	62.2	14,963	46.7

(注) 労働参加率 = 労働人口 / 生産年齢人口

(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米ISM景況感指数と  
コンファレンスボード消費者信頼感指数



期間：2018年1月～2022年1月、月次

(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

**重要  
イベント**

2月10日 米消費者物価指数 (1月)

2月11日 米ミシガン大学消費者マインド指数 (2月、速報値)